

大会 スローガン

連合鳥取「第25回定期大会」総勢180人で開催

～次の飛躍へ 確かな一歩を～



写真(左上より)／新年度役員 本川博孝会長 澤田陽子副会長 林大介副会長 松崎浩哉副会長 桑村紀幸副会長

ディーセント・ワーク世界行動デーアクション

2008年より10月7日より制定されている『ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）世界行動デー』を確認し進めていくため、参加者全員で“ディーセント・ワーク世界行動デーアクション”として、「すべての人たちにディーセント・ワークを！ Decent Work For All!」と声をあげました。



退任役員

お世話になりました

新役員

よろしくお祈りします



左から／竹田前執行委員 浅田前執行委員 吉田前執行委員



左から／長屋執行委員 高濱執行委員 野村執行委員 坪内執行委員 岩本執行委員 大庭執行委員

潮前執行委員 本山前会計監査

【退任役員】 ※年度途中の交代を含む

前副会長 弘中 光典 (UAゼンセン)

前執行委員 藤田 雅志 (JAM)

〃 藤田 浩二 (JP労組)

〃 潮 克浩 (自動車総連)

〃 米村 徹 (情報労連)

〃 浅田 弘子 (女性代表/電機連合)

〃 吉田 葉子 (女性代表/JP労組)

〃 竹田美智子 (女性代表/全水道)

前会計監査 浦木 肇 (情報労連)

〃 木山 健一 (国公総連)

〃 山下 孝次 (全労金)

役職名	氏 名
会 長	本川 博孝 (自治労/専従)
副 会 長	澤田 陽子 (女性代表/自治労) 林 大介 (UAゼンセン) 松崎 浩哉 (運輸労連) 桑村 紀幸 (全水道)
事務局長	田中 穂 (電力総連/専従)
副事務局長	吉田 正 (JAM/専従) 馬場 一憲 (自治労/東部地協・専従) 山田 秀之 (自治労/中部地協・専従) 佐貫 馨 (JR連合/西部地協・専従)
執行委員	西村 裕生 (自治労) 河村 正之 (電機連合) 寺谷 昭人 (日教組) 福本 和幸 (JAM) 廣澤 寿志 (JR連合) 谷本 寛 (JP労組) 若月 哲郎 (紙バ連合) 里田 斉昭 (全国農団労) 門脇 直人 (電力総連) 和泉 貴弘 (自動車総連) 湯村 謙二 (交通労連) 金田 慎一 (情報労連)
執行委員	矢田 仁志 (私鉄総連) 下田 倫久 (フード連合) 内田 欣伸 (国税労組) 大庭 圭子 (女性代表/UAゼンセン) 高濱加奈子 (女性代表/日教組) 野村 香織 (女性代表/JR連合) 坪内 康恵 (女性代表/JP労組) 長屋 幸美 (女性代表/全国農団労) 岩本 真葉 (女性代表/全水道) ※青年委員会・女性委員会代表 (各1人) ※東部・中部・西部地協代表 (各1人)
会計監査	藤木 真由 (情報労連) 西平 文英 (国公総連) 安藤 祐輝 (全労金)



大会宣言

連合鳥取は、2020年2月に結成30周年を迎える。その節目を前に、次の時代の連合運動を力強く切り拓いていくためにも、今大会を契機に向こう2年間を、足元をしっかりと固める期間としていかなければならない。

わが国は、人口減少や第4次産業革命への対応など、未来への希望をつないでいくうえで重要な局面にある。その中で、誰もが互いに支え合い、希望を持って働き暮らせる社会のために、連合が掲げる「働くことを軸とする安心社会」の実現がより一層求められている。

県内の経済・雇用情勢は、持ち直しつつあると基調判断され、人手不足も生じているが、アベノミクスによる賃上げは一部の企業のみで、県内の中小・小規模事業所における労働条件の向上にはつながっていない状況にある。そのため、われわれ労働者の仲間にも雇用不安・生活不安・将来不安が払しょくされていない。

このような中、雇用形態間における不合理な格差の解消、長時間労働の是正など連合が求めてきた政策が進みつつある。しかし、働き方に関する新たな常識を広げるには法律の整備だけでなく、職場や地域での実践こそが不可欠である。私たちは、集団的労使関係の強みを活かし、「働く者のための働き方改革」の実現に向けて、その先頭に立ち取り組みを進めていく。

10月に施行された総選挙は、国会・国民軽視を続けてきた安倍政権からの転換をはかる闘いと位置づけ「安倍一強政

新役員体制で2018年度スタート!

一本川博孝会長、澤田陽子・林大介・松崎浩哉・桑村紀幸副会長を選出

連合鳥取は、11月16日(木)、倉吉未来中心において「第25回定期大会」を開催し、2017年度の活動の総括を行い、2018年度の運動方針・予算と新役員体制を満場一致で承認され、新年度をスタートさせました。

新年度は、「働く者のための働き方改革」の実現に取り組むとともに、「連合鳥取第3次男女平等推進計画」の目標達成に向け、初の「女性副会長」に澤田陽子さん(自治労)が、また、「女性代表の執行委員」の増員(3人⇒6人)が承認されました。

※出席者内訳/代議員111人・特別代議員3人・執行部32人 (うち女性26人 (17.8%))

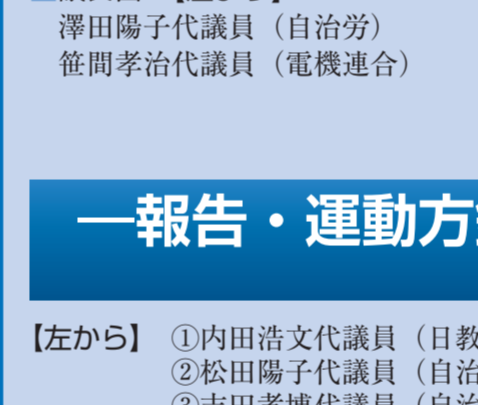
来賓のみなさま



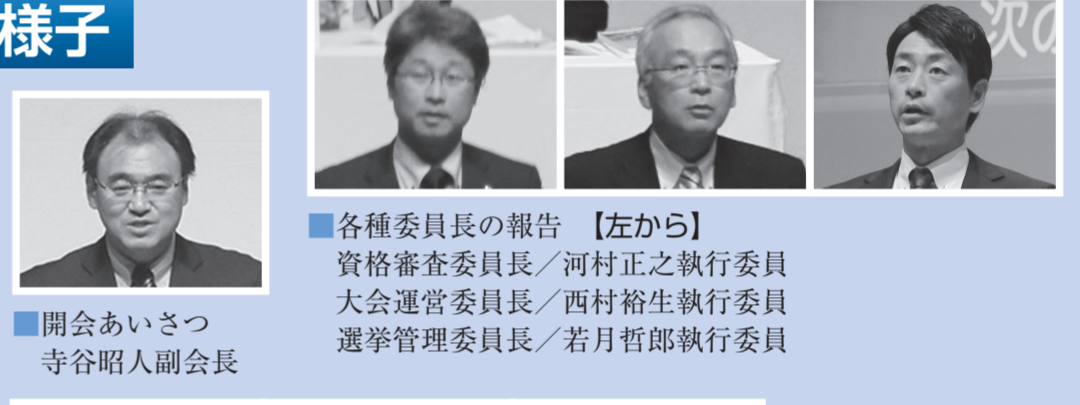
山本和代連合副事務局長、野川聡副知事をはじめとする多くのご来賓にご臨席いただき、連帯のごあいさつをいただきました。10月に実施された「第48回衆議院議員選挙」で惜敗された湯原俊二さんからもお礼のあいさつがありました。



【上段左から】 山本和代連合副事務局長 野川聡鳥取県副知事 内田敏之鳥取労働局長



【下段左から】 伊藤保民進党鳥取県連合会代表 湯原俊二さん



【左から】 資格審査委員長/河村正之執行委員 大会運営委員長/西村裕生執行委員 選挙管理委員長/若月哲郎執行委員



【左から】 田中穂事務局長 吉田正副事務局長 藤木真由会計監査

大会・議案討議の様子



一報告・運動方針への寄せられた質疑・ご意見 (主旨)

⇒(青) 執行部答弁

【左から】 ①内田浩文代議員 (日教組) ②松田陽子代議員 (自治労) ③吉田孝博代議員 (自治労)

①組織拡大に向けて「オルグ」活動に尽力されているが、実際に出向いた時の相手方の感触はどういう感じか?
 ⇒紙バ連合・丸彦産業労働組合、JAM・TVC労働組合のように、少しずつではあるが組織拡大につながっている。連合鳥取では毎年「組織実態調査」を行っているが、その結果、2%から3%自然減となっている。連合鳥取では最重要課題として「組織拡大」に取り組んでいており、単組の関連会社にオルグに出向いたり、飛び込みオルグも、中部地域の保育組織にアドバイザーと専従役員が出向き実施している。
 ⇒組織拡大の取り組みで心がけていることは「人間と人間のつながり」。定期的に訪問し、労働組合の必要性を説いていく。時間はかかるが、アクションを起こしていくことが大切。努力していく。産別、単組からも情報提供をいただきたい。

②「組織運営の基本」の中に「女性活躍推進プロジェクト」とある。女性参画担当をしており、(各種行事に)女性になかなか参加してもらいにくいのが難しい。「女性代表枠」とはどのような考えか?
 ⇒4年前から検討を重ね、2年前の定期大会で「女性代表枠の執行委員」として3人の女性に出会った。この女性代表の執行委員からは、いろいろな方面から提起いただいた。自治労の支援により「各種学習会等への託児の設置」など、女性組合員が参加しやすい環境を作ってきた。この度、役員推薦委員会の努力で3人から6人に増員として提案する。以前は、執行委員会のメンバーの中の女性が「女性委員会委員長のみ」という現実があった。(今回の改選で)地協、青年委員会、女性委員会をのぞく「執行委員会」の中の女性参画率は23%となるが、目標の30%には届いていない。「女性活躍推進プロジェクト」には、女性役員だけでなく、(事務局長である)田中も入って取り組んでいく。

③市臨時職員として29年前から勤務している。その時は「昇給なし」「退職金なし」であった。その当時の労働組合は「正規職員」のものだった。年金支給年齢の引き上げに伴う「再任用制度」として、「組合員の定年が65歳まで」となったと組合機関紙で知ったとき、当時の書記長に「非正規の職員はどうなるの?」と問うた。(非正規職員は)置きざりにされ悔しい気持ちだった。その後、労働組合は「非正規職員の定年も65歳」と勝ち取ってくれた。「非正規の組合員化」「〇〇評議会の立ち上げ」の話があったとき、「非正規職員が声を上げる機会ができる」「組合に結集(権利)を勝ち取るしかない!」と14人で加入し「〇〇評議会」を結成した。それから2年8カ月がたち、その間、「10年ぶりの賃上げ」等4つ勝ち取り、今、組合員は43人になっている。一方的な労働条件の変更などに対して闘っている。各産別でも、「非正規の組織化」を進めてください!

⇒公務職場の非正規職員として働いておられると聞いている。連合も結成当時は大きな会社の正規職員の組合であったが、2003年の「評価委員会」で、「(今の状態では)すべての働く人から共感を得られない!」すべての働く人のための「連合」となるべき」とまとめ取り組んできている。構成組織の協力と理解を得て非正規の組織化を図っていく。好事例の「情報交換・交流の場」「春闘地域フォーラム」等で、非正規のみさんに光をあて取り組みを実施したい。

④倉吉市の「エースパック」の事件(不当解雇)については、中部地域メーデー会場でも配布を行った。「不当解雇理由」の「制裁条項」の部分、「辞めさせること」に都合のいいように就業規則を変更、すり替えをしたのは「社労士」であった。社労士が団交に不当介入するのは違法である。問題提起してほしい。労働基準監督官が少なく、社労士が代わりに対応するようになりつつあるが、社労士の中には悪質な人がいる。警鐘を鳴らす働きかけをしてほしい。
 ⇒最近「人(労働者)を大切にすることが欠如してきている。労使とも「労働法」を知らなすぎることが問題。「社労士」の不当介入については、鳥取県への政策・制度要求の中に入れていく。2年前の要請事項に入れていたが、「鳥取県にはなかった」とのことだったので、今年度は要請しなかったという経緯がある。

治継続の是非」を問うことになった。しかし、混沌とした政局に終始し、政権交代可能な政治体制づくりに向けた、与党1、野党1の構図が構築されず、結果として自公を利する形となったことは非常に残念と言わざるを得ない。

確固たる民主主義の実現には巨大与党に対峙できる健全な野党勢力が必要である。その上で、連合は今後も政権交代可能な二大政党的体制の構築をめざし、引き続き社会から共感を得られる政治活動・労働運動に取り組み、働く者・生活者の立場に立った政策実現をめざしていく。

この大会で私たちは、社会変革の原動力としての労働運動を牽引するべく、組織力、政策力、発信力に一層磨きをかけていくことを確認した。労働運動の真価が問われている中、「連合鳥取32,000人」に向けた組織拡大の加速、非正規雇用、女性、若者をはじめ多様な仲間の参画促進、そして社会の共感と信頼を得る取り組みを力強く発信していく。私たちは、確立した方針のもと、一丸となって働く者のための労働運動を力強く展開し、その社会的役割と価値を確実に次の時代につないでいく。

いまこそ、次の飛躍へ、確かな一歩を踏み出そう!

2017年11月16日
 連合鳥取第25回定期大会



提案する 太田女性委員長